

令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	57	国際児支援体制強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-ア				
担当部課名	子ども生活福祉部女性力・平和推進課	事業実施(予定)年度	H28 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県民の社会参加活動の促進と協働の取組の促進			
事業内容	言葉の壁など、様々な課題を抱えてアメリジアンスクールへ通う児童・生徒を、本来の学籍がある小中学校への復学を図るとともに、高校等への進学を促進するため、きめ細かい学習指導、カウンセリング等の支援体制の強化を行う。							
効果発現年度	■当年度      ■後年度(      年度)							
実施方法	□直接実施   □委託   ■補助   □負担   □その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】		H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	R1年度(繰越)	R2年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,792		10,792		17,533	
		(b) 予算現額	10,792		10,792		17,533	
		(c) 増減額(b-a)	0		0		0	
		(d) 前年度繰越額	0		0		0	
		A. 計(b+d)	10,792		10,792		17,533	
	B. 執行済額		10,792		10,792		17,533	
	うち交付金充当額		8,633		8,633		14,026	
	C. 次年度繰越額				0		0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%		100.0%		100.0%	
予算の状況の説明		予算額は全て補助金により執行しており、執行率100%だった。						
活動目標(指標)及び進捗状況	R2活動目標(指標)		進捗状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	小学4年生以上の生徒にはカウンセリングを月4回程度、中学生には進路指導を月4回実施する。		目標	4回/月	4回/月	4回/月	4回/月	
			実績	カウンセリング 2回/月 進路指導 2回/月	カウンセリング 2回/月 進路指導 2回/月	カウンセリング 2回/月 進路指導 2回/月	カウンセリング 2回/月 進路指導 2回/月	
	カリキュラム統括者によるスクール全体のカリキュラムを見直し、転入生に対する個別の支援プログラムなどを検討する。		目標				カリキュラムの見直し 全学年分	
			実績				カリキュラムの見直し 全学年分	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導の実施等により、中学3年生2名中2名が沖縄県立高校へ進学した。</li> <li>・年度途中で13名の生徒がアメリジアンスクールから公立学校、私立学校及び英語教育を行う教育施設に移動した。</li> <li>・カリキュラム統括担当者による全学年分のカリキュラム見直しを実施した。</li> <li>・上記4点から、令和元年度の活動目標は概ね達成できた。【達成率100%】</li> </ul>						
成果目標(指標)及び達成状況	R2成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(〇〇年度)	
	学籍校等へ復学する高学年児童・生徒の割合		目標		11%	11%	12%	
			実績		14.3%	20.0%	33.3%	
	高校等へ進学する生徒の割合		目標		100%	100%	100%	
			実績		100%	100%	100%	
	達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度以降の成果目標数値を移動者と進学者に分けた。学籍校等へ移動する児童・生徒の割合を12%、高校等へ進学する生徒の割合を100%と設定した。</li> <li>・令和2年度は学籍校等へ復学する児童・生徒の割合及び高校等へ進学する生徒の割合ともに達成しており、引き続き指導・支援していく。</li> </ul>					

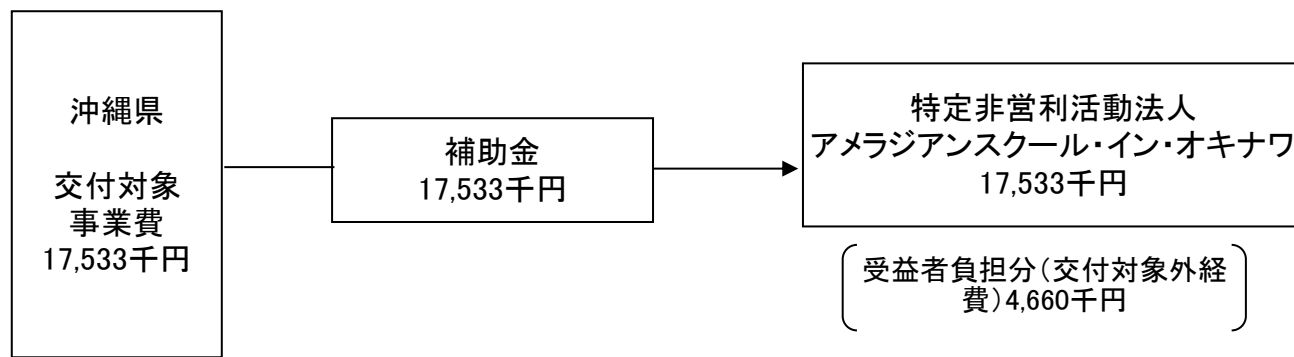
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメラジアンスクールの生徒は、高学年になるまでに多くの子どもが本来の学籍がある小中学校に移動する。一方で、高学年までスクールに通い続ける子どもには、深刻な言葉の壁に直面していたり、いじめから逃れて安心できる場所を必要としていたり、特に困難な事例、きめ細やかな始動を必要とする事例が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメラジアンの子童・生徒が在籍校へ円滑に復学または進学できるよう、進路指導やカウンセリング等のあり方の見直しや、教務スタッフのノウハウの向上、蓄積を図る必要がある。</li> <li>・日米双方の教育カリキュラムを独自に組み合わせている本スクールの特色を踏まえたカリキュラム全体を見直すほか、生徒児童にあわせた個別の支援プログラムを検討する必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・明確な目標を持った指導体制の中、児童生徒たちにおける学籍校への移動、及び県立高への進学促進の支援を行う。
- ・事業を通して、アメラジアンの子童・生徒等を対象とした指導やカウンセリング等について、教務スタッフのノウハウの向上、蓄積を図る必要がある。
- ・カリキュラム統括者によるスクール全体のカリキュラムを見直すほか、転入生の多いスクールにおいて、通常カリキュラム円滑に移行できるよう個別の学習プログラムなどを検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
17,533	17,533	14,026	3,507	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受益者である特定非営利活動法人アメラジアンスクール・イン・オキナワは総事業費の約2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	